

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.6.9

No. 20

## 一を聞いて幾つ悟れるか？ …… 人に頼らず自分で考える訓練を



「一を聞いて十を悟る」という言葉がありますが、最近の若者の中には、十のことを言っても半分悟れるかというような状況が見られがちです。これは私の感想だけではなく企業関係者からも言われることです。以前であれば、一を聞いて三を悟くくらいはあたりまえでした。

昔の親は忙しく、多くを言わないために、子供はそこから先は自分で考えないといけませんでした。そのために日頃から一を聞いただけで、その先は自ら考え出す訓練が出来ていました。最近は少ない子供に親は多くの手をかけ、いつも子供の先を考え丁寧に子育てをしているためか、子供は親を頼り切り、自らあまり考えなくなっています。自分で考えれば直ぐ分かるようなことまで直ぐ聞くということはありませんか。それではいつまでたっても自ら考えて行動が出来ないでしょう。

もとよりいつまでも親に頼ってはいられません。社会に出れば自分で考えて動かなくてはいけないことが多くなります。せめて今からでも、人を頼る前にまず「自分で考える」訓練をしておかないといけません。一つのことを言われたら、色々状況判断をし、せめて二か三くらいは悟れるようになって欲しいものです。

## 後輩に負の遺産をのこすな！

4月以来進路室へ今年卒業した先輩達が何人か来たり電話をよこしたりしています。その中にすでに「会社を辞めた」という者が数名、「辞めたい」という相談をしてきた者も数名います。進学した生徒が、早くもついていかれないという者もありました。



まだ入社後二ヶ月しか経っていないのに何ということでしょうか。そのほとんどはサービス業へ就いた人です。石の上にも3年などという言葉は死語状態です。どうしてこんなにも我慢が出来ないのでしょうか。辞める人はそれで済むかもしれませんが、学校としては後に響いてきます。来年その会社にお願いがしにくくなるのです。

昨年も就職試験に関わって幾つかのトラブルがありました。学校が大きくお叱りを受けたことも二件ありました。学校外の企業等とのトラブルは本人だけの問題に留まりません。学校にとってはまさに卒業生の残した負の遺産です。それを払拭するにはそう簡単に済まないこともあります。数年前にずく出せで行った企業から、生徒の起こしたトラブルでもうお宅の学校からは採用しませんとお叱りを受けた企業がありましたが、いまだに求人がいただけません。

先輩の起こした問題(負の遺産)によりまさに後輩の進路が閉ざされてしまっている良い例でしょう。毎年この様なことを繰り返していくと、後輩達はどうしたらよいのでしょうか。皆さん達は今これから進路選択をしていくわけですが、少なくとも来年の今頃になり会社を辞めたいと言ってくることの無いようしっかり、自分にふさわしい進路選択が出来るよう心がけて欲しいものです。